## １．北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

| 分野 | 景気の現状判断 | 業種・職種 | 判断の理由 | 追加説明及び具体的状況の説明 |
|---|---|---|---|---|
| 家計動向関連<br>（北海道） | ◎ | － | － | － |
| | ○ | 商店街（代表者） | 来客数の動き | ・夏の大売出しなどの販促イベントがあったこともあり、７月初旬までは飲食業を中心に売上がアップした。中旬は例年とほぼ同じ動向であったが、下旬は天候に恵まれたことで、地域住民による夏物衣料品などの購入に加えて、観光客による宿泊、交通、飲食、土産物などの消費もみられ、多くの店舗で売上を伸ばした。 |
| | ○ | 一般小売店［土産］（経営者） | 来客数の動き | ・外国人観光客がかなり増えてきていることで、北海道全体でみると売上が少しずつ増え、景気の底上げにつながっている。ただし、地域によっては売上がかなり落ち込んでいるとの話もあるなど、地域間の格差もみられる。 |
| | ○ | 一般小売店［酒］（経営者） | 販売量の動き | ・酒税法等の一部改正に基づく酒類の公正な取引に関する基準が６月１日から施行されたことで、当社も客先に値上げの案内を行ったが、客先には割と抵抗なく受け入れてもらうことができている。７月に入っても買い控えなど、消費にブレーキがかかった様子はみられず、利益も以前と比べて１％前後上回って確保できるようになってきている。 |
| | ○ | 百貨店（販売促進担当） | 単価の動き | ・夏のセールがスタートし、来客数は増加傾向にあるものの、購買客数は減少傾向となっている。しかしながら、客単価の高い外国人観光客が増加していることで、全体の数字を押し上げており、前年比はプラスで推移している。 |
| | ○ | 百貨店（営業販促担当） | 来客数の動き | ・６月に引き続き来客数に回復の兆しがみられる。また、紳士服、婦人服といった衣料品も健闘しているため、全体的に安定した数字が表れている。内容をみても、定価品の売上が前年を上回るなど、セールに偏っているわけではない。 |
| | ○ | スーパー（店長） | 単価の動き | ・客単価、買上点数共、前年実績を上回る傾向が継続している。 |
| | ○ | スーパー（店長） | 来客数の動き | ・７月に入り、気温が30度を超える日が続いたことの影響もあり、来客数が前年を上回ってきている。 |
| | ○ | コンビニ（エリア担当） | 販売量の動き | ・７月は気温の高い日が多く、天候に恵まれたことにより、飲料水やビールなどの商材の販売量が大きく伸びた。６月と比べると、前年比も５％ほど上昇している。 |
| | ○ | 衣料品専門店（店長） | 販売量の動き | ・夏物セールが好調に推移しているほか、先物オーダースーツも前年比110％と好調に推移している。 |
| | ○ | 家電量販店（店員） | 販売量の動き | ・７月初旬からの好天と猛暑でエアコン、扇風機などの夏物商材が例年以上によく売れている。 |
| | ○ | 乗用車販売店（経営者） | 販売量の動き | ・他社も含めた新型車効果もあり、市場の上向き傾向が継続している。客のマインドも以前と比べて上向いてきている。 |
| | ○ | 乗用車販売店（従業員） | 販売量の動き | ・新型車が出たことで、今月は車の売りやすいタイミングとなっている。とても流れの良い時期である。 |
| | ○ | 自動車備品販売店（店長） | 販売量の動き | ・原材料高騰による冬タイヤの値上げが報道されたこともあり、７月にもかかわらず冬タイヤへの問い合わせが増えてきている。商談の際に気にしている客も多い。 |
| | ○ | 高級レストラン（スタッフ） | 来客数の動き | ・夏休みに入り家族連れ、子ども連れの客が目立つ。外国人観光客の利用も多い。開店前から客が並び、オープンと同時に満席となり、午後３時ごろまで満席が続く。ディナーはあまり満席にならないが、客単価の高いコース予約が入る日もみられ、売上につながった。ただし、特殊要因のあった前年と比べると、全体の来客数は９％下回るなど、厳しい状況にある。 |
| | ○ | 観光型ホテル（スタッフ） | 来客数の動き | ・募集型海外ツアーの宿泊客、国内個人客のＷｅｂ予約共に好調に推移した。 |
| | ○ | 旅行代理店（従業員） | 来客数の動き | ・夏観光のピークシーズンを迎えて、関西方面との季節運航便の運航が開始されるなど、年間で最も活発に人が動く時期である。外国人観光客についても、乗継運賃の割安感などがあり、アジア人に加えて欧米人の来訪が増えてきた。 |
| | ○ | 旅行代理店（従業員） | 来客数の動き | ・旅行のピーク期に入り、夏休み需要などの効果もあり、来客数が増えている。特に前年悪かった海外のリゾート旅行の動きが良い。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ○ | タクシー運転手 | 販売量の動き | ・気温の上昇に伴い夜間の顧客の動きが良くなっており、タクシー収入が堅調に伸びている。ただ、外国人観光客の利用による営業収入の増加はみられない。 |
| ○ | 観光名所（従業員） | 来客数の動き | ・７月27日時点の利用乗降客数は前年比102.6%と微増である。ただ、前年は北海道新幹線の開業効果による上積みがあったため、そのことを考慮すると健闘している。 |
| ○ | その他サービスの動向を把握できる者［フェリー］（従業員） | 来客数の動き | ・特に個人客が増加しており、団体客の減少分を補っている。 |
| ○ | 住宅販売会社（経営者） | 販売量の動き | ・建築については、引き続き低金利の影響で貸家、アパートなどが好調である。個人消費は低調だが、猛暑の影響で上向きになりつつある。 |
| □ | 商店街（代表者） | 来客数の動き | ・商店街への来街者が減っている傾向にあるが、それ以上に来客数が減っているという店舗が多い。集客できないという声も多く聞かれる。 |
| □ | 商店街（代表者） | お客様の様子 | ・客の様子が以前と変わらず、変化がみられない。 |
| □ | 商店街（代表者） | 販売量の動き | ・今年の北海道は暑い日が続いていることで、夏物の販売が好調に推移しているが、暑すぎて外出を控える客も多く、販売量全体としてはそれほど伸びなかった。 |
| □ | 商店街（代表者） | お客様の様子 | ・景気は好調だった春先から下向くこともなく推移している。しかしながら、大きなイベントの時ほど、周辺店舗への波及がみられないことから、客が必要以上の買物をしない傾向がうかがえる。 |
| □ | 百貨店（売場主任） | 単価の動き | ・夏のセールの客単価が低下気味である。その一方で、外国人観光客による売上は増加傾向にあり、特に特選ブランドでの動きが顕著である。 |
| □ | 百貨店（担当者） | 来客数の動き | ・近隣の商業施設のオープン効果が続き、当店の来客数が前月に引き続き前年を上回って推移していることから、少なくとも購買に対する関心は高いままである。 |
| □ | スーパー（企画担当） | お客様の様子 | ・首都圏では2020年の東京オリンピック開催を控えて好況感が強いが、1964年の東京オリンピック当時のような全国規模の盛り上がりまではみられず、地方への波及もみられない。お金を消費に回すよりも、将来に向けて蓄える方が良いという雰囲気が依然として根強く、特に若い世代の生活が大変厳しくなっていることで、商材を購入する主力世代が40歳以上になってきている。 |
| □ | コンビニ（エリア担当） | お客様の様子 | ・売上が増加する時もあるが、観光客の入込やスポーツ大会などの一過性の要因によるものが主となっている。 |
| □ | 衣料品専門店（店長） | 単価の動き | ・例年と比べて客単価が低くなっている。 |
| □ | 乗用車販売店（従業員） | 販売量の動き | ・新型車が発売されても、販売量にさほど大きな影響がみられない。 |
| □ | その他専門店［医薬品］（経営者） | 来客数の動き | ・来客数が激減しており、歯止めがかからない。チラシやＤＭの増強による販促程度では変化がみられないほど、客の買い控えがすさまじい。 |
| □ | その他専門店［ガソリンスタンド］（経営者） | 販売量の動き | ・引き続き石油製品価格が安定していることから、大きな変化はみられない。 |
| □ | 高級レストラン（経営者） | 来客数の動き | ・東京オリンピックを控えて、全国的には建設業や不動産業などの景気が良いのかもしれないが、政権の先行きに不透明感が出ていることもあり、当地の景気が上向いているかどうかが判断できない。 |
| □ | 高級レストラン（スタッフ） | 販売量の動き | ・７月の売上は前年の９割となり、前年並みに戻ってきている。ただ、例年であれば、ボーナス翌月の７月は景気が上向くが、今年はそうした影響を感じにくかった。価格を下げた方が客の動きが良くなる傾向がみられる。 |
| □ | 観光型ホテル（役員） | 来客数の動き | ・国内外問わず個人客の利用が伸びていない。 |
| □ | 旅行代理店（従業員） | 販売量の動き | ・売上が前年とほぼ同じである。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | □ | 旅行代理店（従業員） | 販売量の動き | ・７月のボーナス時期を迎えたが、客の反応がやや弱く、動きもあまり変わらない。 |
| | □ | タクシー運転手 | 来客数の動き | ・タクシー１台当たりの売上は、前年から３％ほど増加しているが、乗務員不足でタクシーの稼働が落ちており、会社全体の売上は前年を３％ほど下回った。 |
| | □ | タクシー運転手 | 販売量の動き | ・夜間の飲食に関連する人出はあるものの、タクシー需要にはつながっていない。前年比でみると売上減の月が続いている。 |
| | □ | タクシー運転手 | 来客数の動き | ・観光客による利用が伸びない一方で、イベント関係での利用が順調であり、全体としてはプラスマイナスゼロであった。 |
| | □ | 通信会社（社員） | お客様の様子 | ・検討だけで満足して帰る客が多いなど、客の購買意欲の高さを感じることが少ない。 |
| | □ | 美容室（経営者） | 来客数の動き | ・春以降、客の来店周期の安定した状態が維持できており、来客数にあまり変動がみられない。 |
| | □ | 美容室（経営者） | 単価の動き | ・例年、縮毛矯正などの高単価メニューを頼む客の多くなる時期であり、今年も好調に推移した。 |
| | ▲ | 百貨店（役員） | 競争相手の様子 | ・５～６月と比べて、客の買上単価が明らかに低下してきている。 |
| | ▲ | スーパー（店長） | 来客数の動き | ・来客数が３か月前と比べて２％ほどダウンしている。前年と比べても３％弱のダウンとなっており、客の動向が好転していない状況にある。 |
| | ▲ | スーパー（役員） | 販売量の動き | ・７月は不漁や相場高で水産物の販売量が減少したことに加えて、野菜の相場安による客単価の低下が重なり、売上に大きな影響が生じている。 |
| | ▲ | スーパー（役員） | 販売量の動き | ・小容量で低単価の商材が売れていることから、高齢者を中心に生活に余裕がないことがうかがえる。 |
| | ▲ | 乗用車販売店（従業員） | 販売量の動き | ・新型車の効果も落ち着き、販売量がやや下向きになっている。前年の数字と比べてもやや落ちている。 |
| | ▲ | 高級レストラン（スタッフ） | 来客数の動き | ・先行き不安から消費をできるだけ抑えようとする客の様子がうかがえる。 |
| | ▲ | 通信会社（企画担当） | 販売量の動き | ・料金体系の見直しを行ったものの、競合他社への流出が続いている。広告宣伝を追加しているが、客の反応が想定以下である。 |
| | ▲ | 住宅販売会社（経営者） | お客様の様子 | ・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の購入決定までにかかる時間が長くなってきている。 |
| | × | コンビニ（エリア担当） | 販売量の動き | ・沿岸部のコンブ漁が最悪の状況となっている。春先の流氷がコンブの生育に影響を与えた上、天候悪化により波の高い日が多く、漁に出ることのできない状況が続いている。漁師の収入も減少しており、来年まで影響が続くとみられる。一方、内陸部の動きは落ち着いているものの、状況はあまり良くない。 |
| | × | タクシー運転手 | お客様の様子 | ・夏の観光シーズンを迎えて景気が上向くことを期待していたが、タクシーの稼動が月を増すごとに落ち込んでおり、大変厳しい売上となっている。前年に開業した北海道新幹線の効果もみられず、前々年並みの売上に戻るなど、期待外れの結果であった。 |
| 企業動向関連<br>(北海道) | ◎ | － | － | － |
| | ○ | 家具製造業（経営者） | 受注量や販売量の動き | ・百貨店や専門店での動きは鈍いものの、住宅関連の需要に底堅さがある。 |
| | ○ | 建設業（従業員） | 受注量や販売量の動き | ・建設好況の首都圏に人手を取られていることで、道内の建設会社の多くが受注量の飽和状態に達している。新規の見積引き合いに対して、辞退の意を示す高額で対応している会社が多い。 |
| | ○ | 建設業（役員） | 受注量や販売量の動き | ・前年の台風被害による復旧工事が最盛期を迎えてきている。 |
| | ○ | 輸送業（営業担当） | 受注量や販売量の動き | ・本州で猛暑の兆候がみられることから、飲料、生乳などで北海道からの輸送量が増加している。 |
| | ○ | 通信業（営業担当） | 受注価格や販売価格の動き | ・サービス単価がこれまでの下げ止まりの傾向からやや上向きに転じている。 |
| | ○ | 金融業（従業員） | 取引先の様子 | ・猛暑による家電販売の伸びが個人消費を押し上げている。外国人観光客による消費や公共投資も好調を維持しており、道内景気は３か月前と比べやや良くなっている。 |
| | ○ | その他非製造業［鋼材卸売］（従業員） | 取引先の様子 | ・農畜産業関連の案件やリゾート開発に伴うホテル建設などの長期的計画が多くみられる。台風被害の復興工事も具体化し、動き出している。 |
| | □ | 輸送業（支店長） | 受注量や販売量の動き | ・相変わらず道外向け移送の動きの弱い状態が続いており、苦戦している。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | □ | 司法書士 | 取引先の様子 | ・土地、建物の売買取引や建築需要は、夏休み、お盆などの季節的な要因で減少傾向にあるが、９月以降は上向くことが見込める。ただし、新規建築件数が低調なままであるなど、景気の水準自体は低く、極端に良くも悪くもなっていない。 |
| | □ | 司法書士 | 取引先の様子 | ・既に上半期が終わったが、不動産取引が増加している様子はみられない。景気回復の手立ても見当たらず、目にみえる景気浮揚策が出てこない限り、不動産取引の活発化は望めない。 |
| | □ | コピーサービス業（従業員） | 取引先の様子 | ・取引先において設備投資に向けた動きが慎重であるなど、景気は変わらない。 |
| | □ | その他サービス業［建設機械レンタル］（総務担当） | 受注量や販売量の動き | ・売上は引き続き前年比で10%以上の伸びを示しているが、伸び率が縮小してきている。 |
| | ▲ | 食料品製造業（従業員） | 受注量や販売量の動き | ・前年と比べて、販売量が１割ほど落ち込んでいる。 |
| | ▲ | 司法書士 | 取引先の様子 | ・例年と比較して不動産の売買、建物の新築工事が少ない。 |
| | ▲ | その他サービス業［ソフトウェア開発］（経営者） | 受注量や販売量の動き | ・新規案件がかなり減ってきている。 |
| | × | － | － | － |
| 雇用関連<br>(北海道) | ◎ | － | － | － |
| | ○ | 人材派遣会社（社員） | 求人数の動き | ・派遣のオーダー及び中途採用のニーズが堅調である。派遣は事務職のニーズが依然として底堅く、販売促進系のオーダーも増加傾向にある。中途採用は事務、営業職、技術職のニーズが増加傾向にあり、企業の業績が堅調に推移していることがうかがえる。求人企業の経営陣と情報交換していても、業績をより拡大させるなどの前向きな話が多く、業績が順調なようである。 |
| | ○ | 求人情報誌製作会社（編集者） | 周辺企業の様子 | ・基幹産業である農業については、前年と比べて農作物の生育が順調に推移している。また、大型の病院、合同庁舎などの公共建築物の工事も順調に発注が行われている。 |
| | ○ | 求人情報誌製作会社（編集者） | 求人数の動き | ・正社員の求人が増加している。特に人材が集まりにくい建設、運輸、介護業界は雇用形態にかかわらず求人が増え続けている。また、不動産関連の求人も堅調である。 |
| | ○ | 新聞社［求人広告］（担当者） | 周辺企業の様子 | ・基幹産業である農業において、農作物の生育状況が順調であることに加えて、外国人観光客を中心に観光客の入込が順調に推移している。 |
| | □ | 求人情報誌製作会社（編集者） | 求職者数の動き | ・労働力人口の減少、高齢化の進展などで企業の採用意欲が高まっているものの、所得の低迷やパート・アルバイトに対する採用ニーズの高さなどから、全般的に消費活動が停滞している。 |
| | □ | 職業安定所（職員） | 求人数の動き | ・月間有効求職者数が５年８か月連続で前年を下回り、月間有効求人数が５か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は0.98倍と７年４か月連続で前年を上回った。 |
| | □ | 職業安定所（職員） | 求人数の動き | ・全体の新規求人数は前年を下回っているが、人手不足分野である建設業や宿泊飲食業、旅客運送業では求人数が増加している。季節的な需要増加に対応するため、これまで以上に人材確保の動きが活発化している。 |
| | □ | 職業安定所（職員） | 求人数の動き | ・水産加工業などを中心に製造業の求人が減少傾向にある。 |
| | □ | 職業安定所（職員） | 求人数の動き | ・６月の有効求人倍率が0.96倍となり、10か月連続で前年を下回ったが、引き続き１倍に近い水準にある。また、人手不足の状況が深刻化している業種もみられる。 |
| | □ | 学校［大学］（就職担当） | 求人数の動き | ・企業の新卒採用意欲は高止まりが続いており、当面はこのままで推移する。 |
| | ▲ | ＊ | ＊ | ＊ |
| | × | － | － | － |